

恵子さんのミニ講座

行動分析は好循環への近道

ここでもうひとつ注目したいのが、自分の働き掛けによってアキさんの介護拒否を解決したことが陽介くんの喜びとなり、ほかのスタッフから注目を集めることにもつながったということです。つまり、喜びや注目が、陽介くんにとっての好子となり、良質なケアという行動につながっていくのです。

良質なケアは、現場のスーパーバイザーによってマネジメントすることも可能です。教育分野の応用行動分析では、好ましくない行動に対して叱ってばかりでは、あまり効果がないと言われています。子育ても、スタッフ育成も、本質は同じです。

陽介くんが自ら気付くことができるように、良質なケア行動のヒントを出すこと（先行条件へのアプローチ）、陽介くんがアイデアを出したときや良質なケアを実施したときはすぐにほめること（結果へのアプローチ）などが効果的です。

認知症介護現場のスーパーバイザーは、よく見て、よく考え、よく発言し合えるよう、スタッフに考え方を伝えて導いていくことが大切です。

現場のスタッフ一人ひとりが、自分たちで気付きを出し合うことが、良いケアを長続きさせるコツです。

ぜひ、自分自身やスタッフの行動をマネジメントするために、応用行動分析を活用してみてください。

恵子さんの アドバイス



個人攻撃のワナに要注意！！

現場では「あの人のケアが至らないせいでBPSDが出現するのだ」と一蹴してしまうことも多いでしょう。しかし、それは単なる個人攻撃的な発言で終わってしまい、ケアの質的向上にはつながりません。それどころか、「あなたのケアのせいでこうなった」と言われ、どうしたらよいかの説明がないままでは、嫌になって辞めてしまうスタッフもいるかもしれません。

現場の観察を行い、分析し、みんなで話し合うことが大切です

自分が変わると、周りのスタッフも変わる

